

PART5 6 世界の潮流

ヘルスケアデータ活用と健康寿命延伸 ⑮

国際社会経済研究所(NEC グループ) 主幹研究員

遊間 和子

満足感を重視



IoTが浸透

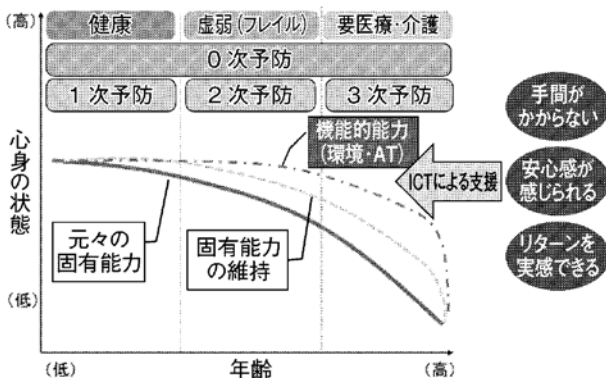
ヘルスケアデータの活用が進む背景には、情報技術の進化も大きく影響している。センサーやウェアラブル機器などIoT(モノのインターネット)がヘルスケア分野にも大きく浸透し、日常生活を営みながらも、さまざまなデータを取得することが可能になってきている。人工知能(AI)もと

ヘルスケアデータの活用も日々進化しており、診断支援、新しい治療・予防法や創薬につながる研究にも活用され始めている。また、ヘルスケア分野での利用を想定したロボットの開発も進んでいる。このような最先端技術により、ヘルスケアデータ活用への期待はさらに高まっている。人工知能(AI)もと

「見る」「話す」など、人間がもともと持つ「固有能力」は加齢に伴いだらかに低下していくが、メガネや車椅子といった「支援機器」、エレベーターなどの「環境」によって補完することで、「機能的能力」は上げていくことが可能である。AI・IoTといったICTに

ICTで「機能的能力」向上

健康寿命延伸につながるICT活用のイメージ



資料出所: WHO「World report on ageing and health」P33のFig2.4.を基にアクセシビリティ研究会で作成

となるような「手間の会」で「医療分野の研究かからな」ICT開発に資する匿名加工を利用しているからこそ、誰が、いつ、どのデータにアクセスしたかを管理できる「安心感」、継続のインセンティブとなる「金銭的・非金銭的なりターンの実感」など、利用者満足感を重視する必要があるだろう。

世界一の強み

ヘルスケアデータを活用することで健康寿命を伸ばし、活動的で健康的に年を取るだけでなく、医療・介護にかかる費用の適正化を図り、ヘルスケア産業も活性化させようという動きは、世界各国で始まっている。日本は、2017年通常国会(金曜日掲載)